

(様式 1-5)

双葉町 地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業 個票

令和5年7月28日時点

※本様式は1-3, 1-4に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	事業名	事業番号	
	双葉町新規人材交流促進のための情報発信等事業	A-1	
事業実施主体	双葉町	総交付対象事業費	27,900 千円
既配分額	7,000 千円	当該年度交付対象事業費	20,900 千円
経費区分ごとの費用			
一 地域の魅力向上・発信事業①情報			
①情報発信事業 小計 20,900 千円			
i) 風評動向調査 3,540 千円			
ii) 体験等企画実施 8,530 千円			
iii) 情報発信コンテンツ作成 3,880 千円			
iv) ポータルサイト構築 4,950 千円			
②外部人材活用 小計 千円			
i) 企画立案のための外部人材の活用 千円			
ii) 地域の語り部の育成 千円			
二 関連施設の改修			
地域の魅力発信事業と一体的に行うための関連施設の改修 千円			
風評の払拭に関する目標			
令和7年度までに、産業や生活の復興だけでなく地域コミュニケーションの活性化や起業等を担えるような人々との交流を深め、本事業終了時には、双葉に移住してくれる人が10人になることを目指す。			
事業概要			
事業実施主体	双葉町		
主な企画内容	産業や生活の復興だけでなく、起業等を担えるような意欲ある層へ情報発信を行うことにより、それら新たな人材との交流機会を設け、町民との交流を促進して町を発展させ、双葉町を再生させる。		
主な事業の実施場所	双葉町、大都市圏（東京近郊を想定）		
事業の実施期間	令和4年度～令和7年度		
企画内容			
【現状・課題】			
<現状>			
・双葉町は震災から11年以上が経過した令和4年8月末によりややく特定復興再生拠点区域の避難指示解除、住民帰還が始まったところであり、被災自治体の中での復興状況は最も遅い状況である。			
・これまでは被災地、復興事業に関心がある人を中心に情報発信、関係創出を行ってきたが、特定復興再生拠点区域の避難指示解除を受け、今後は一般的な復興事業だけでなく、ソフト面での「双葉町の再生」を加速化していくための取組を進めていく必要がある。			
<課題>			
・双葉町の再生を加速化していくためには、帰町した住民だけでなく、他地域の方々に双葉町の現状を知ってもらい、双葉町の再生に携わりたい、双葉町で貢献したい、活躍したいと思うような方々の関心を呼び起こし、双葉町に来ていただく必要がある。			
・ここで、全国に目を向けると、地域で関係人口創出や活性化の取組を行っているような能力・やる気のある者は多くいるものの、そうした者は、例えば興味の切り口が「リノベーション」や「映像」であることが多			

い。しかしながら、現状の双葉町には、このような町の再生に向けた取組を担え得る者とのコネクションはない。

- ・また、これまで行ってきた情報発信手法は、上記現状のとおり、主に産業や生活の復興そのものに関心を持つ者を対象としたものであることから、それ以外の地域活性化の取組を行っている層に対しては、必ずしも有効な情報発信手法とは言い難い。
- ・したがって、双葉町の再生に寄与できる多様な人材との交流促進を図るため、関係人口創出や活性化の取組を担えるような人材層に対し効率的・継続的な情報発信を可能とする手法を検討し、戦略的に情報発信を行っていく必要がある。

#### 【課題に対するこれまでの取組と成果】

##### <本事業以前からの取組>

- ・壁画アートなどの民間による取組を実施。
- ・まちづくり会社により、町内でのイベント等を開催。
- ・町内に産業団地を整備し、全国を対象に企業誘致を実施。

##### <昨年度事業における取組>

- ・東日本大震災の被災地で新たな事業を立ち上げた若者やりノベーションの専門家、ランドスケープデザイナーの3名を交えたシンポジウムを実施。  
(新型コロナウイルスの蔓延状況も踏まえ、オンライン（機微な意見もあるためクローズド）で実施。)

#### 【今年度事業における具体的な取組内容】

- 原子力災害により長期間に渡る避難生活及び復興に向けた厳しい道りを余儀なくされている双葉町の風評払拭を図り、再生を加速化するため、以下により双葉町の再生に寄与する多様な人材の交流の促進（「知ってもらう」「来てもらう」）するための情報発信を行う。

##### ① コンペ・シンポジウム等を通じたアウトリーチ情報発信の検討

実施期間：R5.10月～R6.3月

実施体制：双葉町及び委託事業者

概算費用：5,740千円

避難指示解除を機に、これまでの復興事業を中心とした切り口ではなく、双葉町の再生に寄与する多様な人材の交流を促進するために、新たな層に向けて効率的・継続的に届く情報媒体、発信内容等（映像、メッセージ性等）を検討し、今後の情報発信の取組方針を取りまとめる。

##### <復興のための構想コンペの実施>

大手ハウスメーカーと協働し、復興のためのアイデアを全国から募るコンペを実施する。コンペの実施により、震災により被害を受けた双葉町がこれから更に魅力的な地域となるためのまちづくり、住まいに関するアイデアを得る。それらのアイデアを活かして、机上の検討にとどまらず、地元還元が期待できる取組を仕掛けていくよう検討する。

##### <シンポジウムの実施> 11月（予定）

昨年度にクローズドで実施したシンポジウムでの検討を踏まえ、今年度はより双葉町での活動・交流につながる取組となるよう、新たにツーリズム業界の有識者を加えて実施する。単なる一過性のイベントにならないよう、県外の企業にも関心を持たれるようなテーマを設定する。

昨年度のシンポジウムは、情報発信という点で脆弱であったという反省を踏まえ、今年度は後述②の事業と連動させて、より効果の高い発信方法（メッセージ性の強い映像作成、キービジュアルを用いたウェブ配信等）を用いて実施する。

##### ② 復興状況・潜在可能性発信のためのWebコンテンツ制作・発信

実施期間：R5.10月～R6.3月 サイト立ちは11月頃を予定

実施体制：双葉町及び委託事業者

概算費用：8,830千円

①の検討に基づき、情報を届けたい層に効率的に到達、共感を得られるような手法（特設Webサイト、ドキュメント形式の映像等）を利用して情報発信を行う。

発信する情報の内容は、双葉町の震災以降の状況、復興・避難指示解除に至る取組や原子力災害から立ち直りつつある現状を理解してもらえそうなものとし、風評払拭、復興促進につなげる。

- ・ 更に、双葉町の再生の加速化に寄与していただけるように、「双葉町まちづくり計画」等の今後の双葉町のまちづくりに関するビジョンについても発信し、双葉町の再生加速化に寄与していただけるように、参画意欲を掻き立てるように努める。
- ・ Web だけではなく、若者や海外にも伝わるように SNS を立ち上げて運用する。
- ・ 取り壊し予定の役場や、震災当時のままの小学校、復興住宅に居住している町民の方々、双葉町役場や職員の姿などをドキュメンタリー映像・写真として制作する。制作に当たっては、ドローンを活用するなど、専門家の手によるインパクトのある映像とする。

### ③ 町内ツアー、キャンプの実施による現地理解の促進

実施期間：R5.10月～R6.3月

実施体制：双葉町及び委託事業者

概算費用：6,330千円

②において実施した情報発信に関心を示した方々、及び当該関心を示した方々と同じカテゴリに属する層の方々に対して、SNS 等のように高い精度でターゲティング可能なメディアを用いて現地イベント（ツアーやキャンプ）を案内・参加募集する。

#### <キャンプ>

11月頃までに1回実施。参加者20人程度を予定。

場所は、空き地となっている町有地のいずれかでの実施を想定。

#### <ツアー>

1月～3月の間に2回実施。各回とも参加者20名を予定。

- ・ 現地視察のコース及び関連資料は、参加者層に適した内容のものを委託事業者と双葉町職員が共同で作成する。震災前の町並みと見比べながら町歩きをする等を予定。
- ・ 現地視察参加者へのアテンド及び説明、質疑応答は、双葉町職員と委託事業者で対応。
- ・ 現地視察イベントについては、表面的な町の現状ではなく、②事業の中で撮影した映像の上映会等も盛り込み、震災までの姿、震災後の経過などストーリー性を持った案内となるよう工夫する。同時に、学習の意味合いと、町の食や祭りの体験の2つの要素を取り入れる。

※ なお、現地視察は真に双葉町の再生に寄与する人材を対象とする観点から、費用については参加者の自己負担としていただく。

#### 【今年度事業における目標】

- ・ ①：コンペ及びシンポジウム 各1回 予定
- ・ ②：Webコンテンツ制作・発信 1回（適宜更新、内容充実は行う）
- ・ ③：キャンプ 1回、ツアー 2回 予定

#### 【今年度、事業の実施により得られる効果】

復興のためのアイデアをコンペを通して広く全国からいただき、シンポジウムを通して更に検討を進める。その検討に基づき、交流を深めたい層に対する情報発信を web 発信や SNS などで行い、町の再生に協力いただけるような人的ネットワークを育てる。

それらの人々に町内のキャンプやツアーに参加していただき、町の実際の姿を見ていただいて更にアイデアをいただいたり、町民との交流を深めていただく。

本事業で制作する専用 web サイトや SNS の発信結果を、閲覧数やリツイート数等のデータで把握するようにし、次年度以降の情報発信にも活かせるようにする。

#### 【次年度以降の取組】

- ・ 継続的な情報発信を行い、本事業が単発で終わらないための仕掛けづくりをする。
- ・ 本取組により得られたコネクション等を活用し、復興を担う人材発掘や町に寄与する取組を見出す。